熱産業経済新聞
2020年11月15日 25日号に掲載

約2.5倍の給気量を実現

エコファクトリーが給気レジスターを発売

デザイン性に優れメンテも簡単

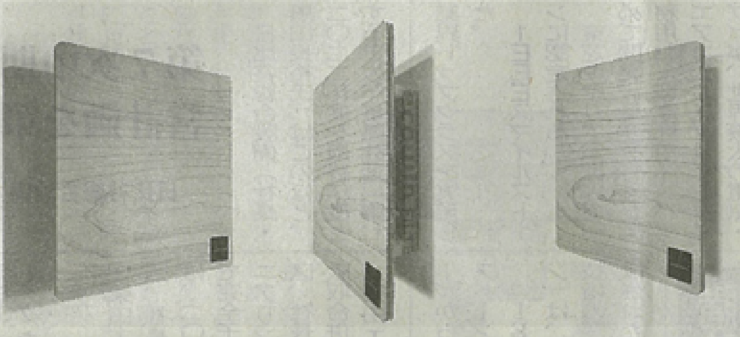
エコファクトリー（本社・熊本市中央区水前寺二の一七の七、社長・村上尊宣氏、☎096・381・7033）は、ecowinの新シリーズとして、給気レジスター「ecowinレジスター」を十二月一日から発売する。

ecowinレジスターは、一般的なレジスターと比較し、約二・五倍の給気量を実現（同社実証試験済み）。既存の換気扇はそのまま、既存の給気口レジスターをecowinレジスターに取り替える（簡単取り付け機構）だけで給気量が倍増する。

一般的な給気レジスターは壁貫通穴内にフィルターが設置されているが、ecowinレジスターは抗ウイルスフィルターを室内側に設置するため、給気面積を大幅に拡大できる。

フィルター交換時期が目に見えてわかり、フィルターメンテナンスが「簡単！らくらく！」。しかも汚れたフィルターは、安価に交換できる。また、フィルターは抗ウイルス効果一万二千の分の一不活化を可能にする〝ecowinフィルター〟を標準装備している。

部屋のデザインにマッチする天然素材を生かした、モダンで優しいデザインを採用。また、化粧プレートは国産ヒノキ材を採用。国産森林資源を有効活用しCO_2の固定化を実現し、地球温暖化防止活動を推進する。壁面設置部は強度が高く長寿命でリサイクル可能な金属製とすることで省資源にも寄与する。



ecowin レジスター

削減

トを開発

定作業の省力
り効果が期待
これに係る労
の活用による
実証した。ま
数削減とな
作業と比較し
質の維持、向
し計測と記
化によりデー
大幅な削減の
務全体でのヒ
ーを低減し、
持・向上が図
化による業務

の効率化

自動計測と並行してクラウドに結果を自動転送することで、計測結果や作業進捗などの状況をリアルタイムで把握できるため、試運転調整における設備不具合の早期発見、対応が可能となり施工管理業務の向上が図られる。

今後、同社では、自社現場での導入を推進するとともに、画像認識技術や各種計測機器との融合による用途の拡張と合わせて、BIMとの情報連携による高機能化を図る。

また、同社搬送設備事業のもつ搬送機器・制御技術との連携による応用開発を進め、施工技術支援、施工管理業務など建設施工現場における多様な業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）の実現を目指し、より働きやすい環境づくりを推進していく。

都市ガス・水素混焼エンジン

基礎研究を開始

東邦ガス 産総研

CGS等への採用目指す

東邦ガス（本社・名古屋市熱田区、社長・冨成義郎氏）は十一月十一日、産業技術総合研究所（産総研、理事長・石村和彦氏）と、都市ガス・水素混焼エンジンの基礎研究を開始した。

同研究では、将来的な水素社会の実現を見据え、まずは中期的な「低炭素化」に向け、都市ガス・水素混焼エンジンに関する技術知見を獲得する。

産総研は、福島再生可能エネルギー研究所にて、研究用ガスエンジンを用いた都市ガスと水素を混焼する実機試験を担当し、同社は、その試験データを活用し、都市ガス・水素混焼エンジンにおける技術的な課題を解決するためのシミュレーション技術を開発する。

二〇二二年三月に完了予定で、同研究の完了後には、ガスエンジンコージェネレーションなどへの採用を目指す。

業務用空調機

遠隔管理サービスを開始

パナソニック 様々なサポートを提

パナソニック（社長・津賀一宏氏）は、業務用空調機器を遠隔管理・集中コントロールできるクラウドサービス「AC Smart Cloud」を、十二月一日から発売する。

新製品は、クラウドアダプターと接続した空調機器の運転状況を遠隔で一括管理できるほか、エネルギーの見える化、メンテナンス時期の通知、異常が発生した際のメール発信、省エネ制御など、さまざまなサポート機能を提供する。

クラウド・アプリケーションでサービスを提供するため、多拠点の運転状況も遠隔で一括管理が

可能。個別にアク
限を付与できるた
用者の制限も可
る。
基本機能として

谷川熱技術振興基金

3氏に賞状等授与

熱技術賞等の贈呈式開催

（公財）谷川熱技術振興基金（理事長・谷川寛氏）の令和二年度熱技術賞および粉生熱技術振興賞の贈呈式が十一月六日、東京・千代田区のホテルグランドパレスで開催された。

冒頭、谷川理事長が「今年も熱技術の振興に多大な貢献された方々が受賞されたことを喜ばしく思っている。今後も健康に留意され、益々ご活躍されることと、後に続く方々のご指導を期待している」と挨拶。

続いて谷川理事長から、熱技術賞を受賞した三島良直氏（国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長、東京工業大学名誉教授）、粉生熱技術振興賞を受賞した谷口善一氏（ウメトク常務執行役員、熱処理事業部長）、板谷義紀氏（岐阜大学工学部教授）に賞状と記念品が授与された。

このあと谷浩・経済産業省製造産業局素形材産業室長が「熱技術は、ものづくりの基本技術であり、わが国の産業発展に欠かせないものだ。受賞者の皆様には、今後もさらなる技術の研鑽と向上に努めていただきたい」と、祝辞を述べた。

また、式の終了後には、記念撮影と祝賀パ
が催された。

既報（九月十五
日付け）のように
は耐熱構造用材料
特性の改善のため
針構築に多大な成

HOSPE
2万2千人

医療福祉機器
する専門展示会
EX Japa
0」が、十一月
十三日までの三日
・有明の東京ビ

る。

最大でも39デシベルの静

準拠に対し保守管理の確実
性を高め、日常的なメンテ

の条件に合わせて強・中・
弱の三段階の運転が選べ